

「今日の人間の安全保障」第3号の発刊にあたって

国際協力機構（JICA）緒方貞子平和開発研究所は、2022年より、『今日の人間の安全保障』と題するフラッグシップレポートを刊行している。創刊号では「人間の安全保障を再考する」、第2号では「複合危機下の政治社会と人間の安全保障」を特集テーマとし、人間の安全保障の理論と実践について議論を深めてきた。そして第3号となる本号は、「人間の安全保障をはかる」を特集テーマに掲げている。

人間の安全保障をよりよく実践するには、様々な事象を「はかる」ことが欠かせない。まず、気候変動に起因する災害、激化する紛争、国内外で拡大する格差など、危機が連鎖し複合的に発生している状況を可視化し、どこで誰が最も困難な状況に置かれているかを理解することは、脅威への適切な対応の出発点となる。また、はかることで得られるデータは、脅威に適切に対応できたかどうか、人びとと社会のレジリエンスがどう機能しうるかを検証する手がかりとなり、国際協力の実践の改善につながっていく。はかることは、計画から実施、そして評価に至るまで、実践のあらゆる段階における意思決定を支え、インパクトの最大化に貢献しうる。

はかることは、技術的なプロセスにとどまらない。それは、人びとの命、暮らし、尊厳が実現する条件とは何か、社会の豊かさとは何か、人間の自由とは何か、といった根源的な問いと向き合うプロセスでもある。誰が、どのような目的のために、何を、どのようにはかるのかについて議論を重ね、幅広い合意を求めることで、私たちは、自分たちが立脚する価値を再定義し、社会のあるべき姿を指し示すことができる。

本レポートでは、異なる専門性を有する研究者や開発実務者の多様な視点から、「人間の安全保障をはかる」ことについて議論を展開する。現在、世界では国際協調に背を向ける動きが見られる。国際社会の共通のゴールである持続可能な開発目標（SDGs）の進捗も遅れており、その達成が危ぶまれている。こうした状況の中、人間の安全保障の視座から、すべての人びとが自由と潜在力を実現できる社会の在り方を描き、その実現に向けた行動を促すことが、ますます重要になっている。本レポートが、人類のより良い未来に向けた議論や実践を促す契機となることを願っている。

2026年3月

国際協力機構（JICA） 理事長
田中 明彦